



東京部会(第 19 回)

日 時: 2009 年 3 月 5 日(木)19:00~21:30

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、大倉(文科省国立教育政策研)、新井(都立西高)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、三枝(目黒中央中)、小原(野村総研)、鈴木(日本経済教育センター)、中沖(清水書院)、宮尾(国際大)[順不同]

【内容要旨】

1. シンポジウムについて

最初に篠原先生が 2008 年 9 月 5 日の総会以降の活動をまとめた事業報告を配布。その上で今後の予定のうち「シンポジウム」について以下の提案がなされた。

去年は東京だったので、今年は大阪で開催。時期としては昨年同様に 7 月中。会場確保などを考えて、他の団体と共催することも一案。内容として、例えば指導要領の話などはタイミングがよいのでは。あるいは今広く話題になっている人に出てもらうことも考えられる。時間がないので詳細を至急固める必要あり。

2. 公共財ゲームについて

篠原先生より、奥田(大阪狭山市立南中)、藤井(同志社香里中高)両先生の意見が書かれた資料が配布された。その中で公共財ゲームについては、以下が主な問題点であるとのこと:(1) ゲームが複雑すぎて本来の狙いが先生にとっても分かりにくい(「囚人のジレンマ」自体の理解が難しい)、(2) マンションの資産価値維持の例では、生徒の生活実感とのギャップが大きい、(3) 先生にとって最後の振り返りや評価が難しい。

議論の結果、以上の問題に対応するために、「囚人のジレンマ」の構造が、少なくとも先生にすぐ理解できるような簡単に身近な具体例(2 人のケース)をいくつか考える、また学習の狙いやポイント、さらに評価の基準も明確化すべき。いずれにしても、短い授業時間内で完了して成果が上がるような工夫が必要。

3. 企業モデルについて

篠原先生が、企業モデルについての考え方をパワーポイントで説明。基本的に「企業を通じて公民を教える」というアプローチで、企業活動にかかわらせて消費者、流通、労働、金融、政府などのテーマを包括的に扱うことを目指す。そうすると間接・直接金融の概念や最近話題の雇用問題、さらに取引ルールにかかわる政府の役割などがよりよく理解できる。

これに対する意見としては、あまりに取り上げるテーマが多岐にわたるので、もう少し議論の整理が必要ではないか。例えば、市場の役割を強調するレベルで全体を概観した上で、組織としての企業の役割や相対取引の視点を加えて、金融や雇用などの現実的な問題につなげることも一案。

さらに三枝先生によって資料「企業モデル案:基本構想」が配布され、篠原先生のアプローチを基にした中学生向けの授業展開の構想案が示された。まず導入部で「無人島」の例などを取り上げて、経済活動や企業活動が人間生活の基本的行為であることに気付かせた後、展開部では「牛丼屋」の例を使って企業のシミュレーションを行う。それによって、市場経済の利点と課題に気付かせることが狙いである。

4. NRI 学生小論文コンテストの冊子

小原さんより 2008 年のコンテスト受賞論文集『日本の新たな「開国」に向けて』(野村総研)が配布された。今年の論文応募の締切は夏休み明けの 9 月 7 日とすること、またテーマはもう少し絞ったものにしたかったのでアイデアを出してほしいとの要請があった。

5. 東京部会報告について

新井先生より、資料「経済教育ネットワーク東京部会報告:3 月 5 日」が配布され、ワークショップの企画進行状況、および入試問題検討プロジェクトの立ち上げについて簡単な説明があった。また最近の経済論壇の動向についても一言コメントがあった。

6. 入試問題について

入試問題検討プロジェクトに関して、宮尾よりセンター試験の問題「政治・経済」の改定案が配布された。また 3 月 5 日付の新聞に掲載された茨城県高校入試問題(社会)のコピーが配られ、その中で、地理や歴史の分野で経済に密接に関係する問題が出されていることが指摘された。つまり、経済史、経済地理、都市・地域経済などの分野で大学と中高の先生方が交流することが、経済的な考え方を中高生に教える上で有効ではないかという結論であった。

(文責:宮尾)

次回開催予定:4 月 23 日(木)19 時~21 時、日大経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

「企業モデルによる経済の仕組みの理解」についてさらに検討する。